

昭和43年度冬作関係除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和43年度冬作関係新除草剤作用性および適用性判定試験成績検討会が、去る9月1日東京において開催された。

その結果の概要をここに紹介する。

1) 供試薬剤の動向

今年度供試された除草剤の種類を対象別にみるとオ1表の通りで、麦類用8剤、なたね用2剤、いぐさ用3剤、水稻刈取後マツバイ対象9剤、同ミズガヤツリ対象6剤、同クログワイ対象1剤、同一年生雑草対象1剤、合計30薬剤であった。その他新しい分野としてノビエの休眠覚醒効果があるとされている石灰窒素の効果確

認試験が行なわれた。

2) 昭和43年度の試験結果の概要

次に今年度の試験結果を実用化判定基準によってみると、オ2表の通りで、実用化に移されたものは6剤、実用化とともに更に一部継続試験に移されたもの7剤であった。これら実用化薬剤の使用基準はオ3表に示したとおりである。

なお、詳細については当協会発行の昭和43年度冬作関係除草剤作用性・適用性判定試験成績集録（既刊）・同要録（印刷手配中）を参照されたい。

<第1表> 供試薬剤成分一覧表

対象作物	薬剤名	剤型	有効成分および成分含有率	委託会社名
(1) 麦類	H W - 1 8 2 9	乳	— 25%	保土谷化学
	H W - 4 0 1 8 7	乳	3,5-ジメチル-4-ニトロジフェニル エーテル 25%	保土谷化学
	S M H - 1 8	液	{ 3,5-ジヨード-4-ハイドロキシベンゾニ トリル(アイオキシニル) 7.5% M C P P 22.5%	塩野義製薬
	H - 3 3 7	水和	{ P C P 78% リニュロン 5%	丸和物産
	H - 3 3 7	粒	{ P C P 15% リニュロン 1%	丸和物産
	M O - 5 0 0	乳	2,4-ジクロル-6-フルオルフェニル-4-ニトロフェニルエーテル 25%	三井東洋化学
	P P - 1 2	粒	{ P C P 17% D C B N - 3 1.2%	PP除草剤普及会 (シエル化学、他)

対 象 作 物	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委 託 会 社 名
(1) 麦 類	C M P T (T O - 2)	水 和	5-クロル-4-メチル-2-プロピオン アミドチアゾール 50%	三井東圧化学
(2) な た ね	H W - 1 8 2 9	乳	— 25%	保 土 谷 化 学
	S - 4 1 6 0	水 和	メチル-4-アミノベンゼンスルホニル カーバメイト 80%	住 友 化 学
	M O - 5 0 0	乳	2,4-ジクロル-6-フルオルフェニル -4'-ニトロフェニルエーテル 25%	三井東圧化学
(3) い ぐ さ	M C C 1 5 (ス エ ッ プ)	粒	メチル-N-(3,4-ジクロルフェニル) カーバメイト 15%	S W E P 研 究 会 (日産化学, 日本農薬)
	U C - 2 2 4 6 3	粒	3,4-ジクロルベンジルメチルカーバメイト 5%	長 瀬 産 業
	P P - 1 0 2 0	粒	{ P C P 20% D C B N 1%	PP除草剤普及会
(4) 水稻刈取後 (i) マツバイ	塩 素 酸 ソ ー ダ	粉	塩素酸ナトリウム 98.5%	大 阪 曹 達
	塩 素 酸 ソ ー ダ (ク サ ト ー ル)	水 溶	塩素酸ナトリウム 98%	保土谷化学, 昭和電 工, クミアイ化学
	H W - 9 0 1	水 溶	スルファミン酸アンモニウム 97%	保 土 谷 化 学
	H W - 9 0 2	粉	スルファミン酸アンモニウム 70%	保 土 谷 化 学
	S E - 4 0 1 (シ ョ ウ メ ー ト)	水 溶	スルファミン酸アンモニウム 97%	昭 和 電 工
	S E - 4 0 2 (シ ョ ウ メ ー ト 7 0)	粉	スルファミン酸アンモニウム 70%	昭 和 電 工
	T O - 4	粉	スルファミン酸硫酸アンモニウム 80%	三井東圧化学
	2,4 P A - A T A (カ リ ア ト ー ル A)	粒	{ 2,4 P A 6% A T A 3%	2,4-D 協 議 会 (石原産業, 日産化学)
	P P - 1 2	粒	〔 麦類の項参照 〕	PP除草剤普及会
(ii) ミズガヤツリ	S C - 4 2 0 2 (ク ロ レ ー ト)	粉	塩素酸ソーダ 70%	昭 和 電 工
	塩 素 酸 ソ ー ダ (ク サ ト ー ル)	水 溶	〔 マツバイの項参照 〕	保土谷化学, 昭和電 工, クミアイ化学
	S E - 4 0 1 (シ ョ ウ メ ー ト)	水 溶	〔 マツバイの項参照 〕	昭 和 電 工
	S E - 4 0 2 (シ ョ ウ メ ー ト 7 0)	粉	〔 マツバイの項参照 〕	昭 和 電 工
	スルファミン酸 2,4,5-T P (ト リ ウ ッ ド)	粉	{ スルファミン酸アンモニウム 65% 2,4,5-T P 1.6%	ク ミ ア イ 化 学
	パ ラ コ ー ト (グ ラ モ キ ソ ン)	液	1,1'-ジメチル-4,4'-ビピリジリウム ジクロリド 24%	武 田 薬 品 日 本 農 薬
(iii) クログワイ	パ ラ コ ー ト	液	〔 ミズガヤツリの項参照 〕	I C I , 武田薬品, 日本農薬
(5) 水稻刈取後 ノビエ 休眠覚醒	石 灰 窒 素		カルシウムシアナミド 50%	日本石灰窒素工業会

<第2表> 実 用 化 判 定 一 覧 表

区 分	実 用 化	実 ~ 継	継 続	継 ?	中 止
(1) 麦 類	HW-40187 乳 H-337 水和 C M P T 水和 (小 麦)	C M P T 水和 (二条大麦)	HW-1829 乳 S M H-18 乳 H-337 粒 MO-500 乳	P P - 1 2 粒	
(2) な た ね			HW-1829 乳 S-4160 水和 MO-500 乳		
(3) い ぐ さ	P P - 1020 粒		M C C 粒 15 (苗床, 本田)		UC-22463 粒
(4) 水稻刈取後 (i) マツバイ	2,4PA・ATA 粒	塩素酸ソーダ 水溶 HW-901 水溶 HW-902 粉 SE-401 水溶 SE-402 粉	塩素酸ソーダ 粉 T O - 4 粉	P P - 1 2 粒	
(ii) ミズガヤツリ	パラコート 液		SC-4202 粉 塩素酸ソーダ 水溶 SE-401 水溶 SE-402 粉 スルファミン酸・ 2,4,5-T P 粉		
(iii) クログワイ		パラコート 液			
(iv) 一年生雑草 (スズメノテッ ボウ他)			P P - 1 2 粒		
(5) 水稻刈取後 ノビエ休眠覚醒			石 灰 窒 素		

<第3表> 昭和43年度 冬作関係実用化除草剤使用基準一覧表

区 分	除 草 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使 用 量 (製品 g/a)	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使用上の注意
小 麦	HW-40187 乳	土壌処理	播 種 直 後	120~160	埴土~埴土 (砂壤土を 除く)	水田裏作 麦圃	麦の発芽前に処 理
				120	洪積 埴土~ 埴壤土 (砂土・砂壤 土を除く)	畑 麦 圃	
	H-337 水和	土壌処理	播 種 直 後	100	洪積 埴土~ 埴壤土	畑 麦 圃	ヤエムグラ・ホトケ ノザ 優占地帯で の使用はさける

区 分	除 草 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使 用 量 (製品 g/a)	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使用上の注意
小 麦	CMPT水和 (TO-2) 〔小麦〕	雑草処理	広葉雑草 発芽揃～ 8.4葉期 (冬生・夏生 雑草とも)	40～60	洪積 火山灰土	広葉雑草主 体の畑作小 麦地帯	・適期に散布する こと ・暖地では薬害の ある場合もある ので注意して使 用する
			イネ科雑草 (スズメノテッポウ) 発生直後～ 1.5, 2葉期	60～80	全 土 壤	スズメノテッ ポウ 優 占 の 水田裏作小 麦地帯	
	CMPT水和 〔二条大麦〕	雑草処理	・広葉雑草 4葉期以下 (越冬前)	40～60	洪積 火山灰土 (畑)	温暖地の畑 作小麦地帯 および水田 裏作小麦地 帯	同 上
			・イネ科雑草 (スズメノテッポウ) 2葉期以下 (越冬前)	60～80	全土壌 (水田裏作)		
い ぐ さ	PP-1020粒	湛 水 土壌雑草 処理	生育中 (3月中旬)	400～600	沖積 壤土～ 埴壤土	水田裏作 いぐさ田 極端な漏 (水田をさ) ける	PP-122粒剤に 準ずる ・均一散布 ・ミズガヤツリが多 発田はさける ・減水深8cm/日 以上のところ では使用しな い
水稻 刈取後 マツバイ	塩素酸ソーダ 水溶	雑草処理	稲刈取後 10日以内	600～800	全 土 壤	寒冷地の早 期または早 植栽培の排 水良好な水 田	・マツバイの枯葉 出現前に散布 ・均一落水散布
	HW-901 水溶	雑草処理	稲刈取後 10日以内	600～800	全 土 壤	同 上	・連年使用をさけ る ・使用後散布器具 をよく洗う ・均一落水散布
	HW-902 粉	雑草処理	稲刈取後 10日以内	900～1,200	全 土 壤	同 上	・マツバイの地上 部がぬれている とき均一散布 ・連年使用をさけ る
	SE-401 水溶	雑草処理	稲刈取後 10日以内	600～900	全 土 壤	早期または 早植栽培の 排水良好な 水田	・落水均一散布 ・連年使用をさけ る ・使用後散布器具 をよく洗う
	SE-402 粉	雑草処理	稲刈取後 10日以内	900～1,200	全 土 壤	同 上	・同 上 ・マツバイの地上 部のぬれている とき均一散布
	2,4PA・ATA 粒	雑草処理	稲刈取後 10日以内	300～450	全 土 壤	稲刈取時の 気温が18℃ 以上の地帯 (湿田・半 湿田)	・マツバイの枯草 が始まらない時 期に散布する ・その他水溶剤に 準ずる

区 分	除 草 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使 用 量 (製品 g/a)	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使用上の注意
水稻 刈取後 ミズガヤ ツリ	パラコート液	雑草処理	稲刈取後 ミズガヤツリ 塊茎形成始期 まで(9月下旬 まで)	30~40	全 土 壤	早期および 早植栽培地 帯でミズガ ヤツリ再生 の良好な水 田	・ミズガヤツリ 再生後散布 ・落水均一散布
水稻 刈取後 クログワイ	パラコート液	雑草処理	稲刈取後 クログワイ塊 茎形成始期ま で(9月下旬 まで)	30~40	全 土 壤	早期栽培地 帯でクログ ワイ再生の 良好な水田	・クログワイが刈 取られた時は再 生後散布 ・落水均一散布

7 頁よりつづく

水田流入や散布果樹園の表土の流入による他作物の枯死などがみられており、今後使用上の注意事項の周知徹底が必要で、場合によってはある程度の規制措置をとることもやむをえないものと考えられる。

果樹園除草剤の今後の方向として、選択性がより大きく、果樹にかゝっても薬害の少ないものの開発や、果樹が傾斜地に多い現状より、表土流亡をも含めた除草剤の移動性についての検

討などが必要であらう。

みかん以外の果樹およびその他の作物における除草剤は、除草剤使用技術の向上と、労働力の現状および新規開発除草剤等により序々に普及するものと思われる。

また、除草以外の利用としてそさい類等に2,4-Dのホルモン効果による単為結実の利用も増加しつつある。